様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　５ 月 ３０ 日現在

機関番号：２２６０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０１２３０

研究課題名（和文）フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムの地理学的研究

研究課題名（英文）Geographical studies on the system of rural restructuring based on the framework of food tourism

研究代表者
菊地　俊夫（KIKUCHI, TOSHIO）

東京都立大学・都市環境科学研究科・客員教授

研究者番号：５０１６９８２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：フードツーリズムが農村の再生や活性化に確実にするために、本研究は新たな３つの地域システムを考案した。第1の地域システムは、フードツーリズムのポイントや空間を動線によって結びつけ、フードツーリズムのコンプレックスを構築するものである。第2の地域システムは、フードツーリズムのコンプレックスにフードツーリズム以外の地域資源を加えるもので、そのシステムは地域全体を対象とするものになる。第3の地域システムは、地域システムの範囲が周辺地域に及ぶようになり、地域システムは広域的に発展する。最終的には、農村の活性化や再生の地域システムは第1の地域システムから第2のものに、そして第3のものに進化する。

研究成果の学術的意義や社会的意義
フードツーリズムのフレームワークに基づく農村の再生や活性化の地域システムは、地域の環境や資源の総合的利用や適正利用が有効でありことを実証的に明らかにするとともに、従来の研究で一般化されずにいた農村の再生発展段や活性化のレベルを明らかにしたことに学術的な意義がある。さらに、フードツーリズムのコンプレックスやそれらと多様な地域資源を組み合わせるコラボレーション、およびフードツーリズムの地域連携や広域化などが実際の農村の再生や活性化に適用できる地域システムになっており、本研究の成果の社会的意義も大きい。

研究成果の概要（英文）：This study identified three new regional mechanisms for regenerating and revitalizing rural areas with the food tourism. The first mechanism connects the spots and spaces of food tourism with traffic lines to create a food tourism complex. The second mechanism adds non-food tourism resources to the food tourism complex and covers the entire region. In the third mechanism, the scope of the regional system extends to the surrounding areas, and develops over a wide area. Finally, the study shows how the regional system of rural revitalization and regeneration evolves from the first regional mechanism to the second and then to the third.

研究分野：農村地理学

キーワード：フードツーリズム　農村再生　農村活性化　地域システム　重層構造　コンプレックス　コラボレーション　広域化

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## １．研究開始当初の背景

農村空間の商品化における議論のなかでは、農村地域の自然や歴史、あるいは景観や生活文化といったルーラリティの消費が背景にあるとされ、なかでもルーラルツーリズムがルーラリティを保全するだけではなく、農村の多機能化や再活性化を促進するものとして注目されてきた。ルーラルツーリズムの研究には、①ツーリズムの実態に関する静態分析と、②ツーリズムがもたらした地域変化の動態分析、そして③ツーリズムによる農村環境の保全と適正利用の持続システム分析の大きく３つのスタイルがあるとし、ポスト生産主義への視点の変化が進行するにつれて、静態的な分析から動態的な分析へ、そして持続的システムの分析へと変化してきた。さらに、ルーラルツーリズムの研究では、ツーリズムが農村や農業に与えた影響や発展要因を説明することはできるが、農村の環境や地域資源の多様性を統合し、地域活性化のフレームワークの構築には限界があるとし、その問題を解決するフレームワークとしてフードツーリズムが考えられる。それは、フードツーリズムが農村の自然景観や文化景観、作物の栽培景観や作物の直接販売といったものを対象とする従来のルーラルツーリズムに加え、地域の生活文化や食文化にまで対象が拡大することになり、観光対象それぞれが相互的かつ重層的に関連しあうことで、より持続性のあるツーリズムを構築できるためである。そのため、フードツーリズムのフレームワークに基づく農村の再生や活性化の地域システムの研究が必要になる。

## ２．研究の目的

フードツーリズムのフレームワークでは、農村景観の空間、農業景観や農産物生産の空間、生活文化やスローフードの空間、および美食文化の空間が相互に関連しながら１つの地域に重なり合って展開することにより、フードツーリズムが完成し成熟したものとなる。このような重層的な空間構造が農村再生や活性化の地域システムとしてどのように活用されるのか、そして農村再生に関わる重層構造の在り方や地域システムが地域によって、あるいは時間的な経緯によってどのように変化するのかを明らかにする。具体的には、フードツーリズムのフレームワークに基づく農村の再生や活性化がどのような段階をたどって発展するのかを明らかにする。また、フードツーリズムのフレームワークは農村地域の自然環境や社会・経済環境、および歴史・文化環境に基づく景観や資源、および生活文化と経済活動を１つの空間構造として総合的に分析することになり、農村再生の地域ごとの差別化とそれをもたらすドライビングフォースとなることも明らかにする。

## ３．研究の方法

本研究は、フードツーリズムのフレームワークを用いて農村の再生や活性化の地域システムを把握するため、最初のステップとしてフードツーリズムの重層的な空間構造をいくつかの事例地域で確認し、農村の再生や活性化に有効であることを明らかにする。フードツーリズムの空間構造は自然環境、社会・経済環境、歴史・文化環境を基盤にして、ルーラルツーリズムの空間、アグリツーリズムの空間、スローフードのツーリズムの空間、グルメツーリズムの空間の相互関係から成り立ち、それらの相互関係の関わり方を時間的空間的に明らかにする。第二のステップとして地域全体の空間構造の構築とフードツーリズムによる農村の再生や活性化との関わりを明らかにする。具体的には、地域の自然環境や歴史・文化環境、社会・経済環境に関連する地域資源との関わり合いが重要な研究視点となる。最終的な第三のステップでは、実証研究に基づくフードツーリズムの空間構造の地域比較により、フードツーリズムの空間構造の重層段階からそれぞれの農村の再生や活性化の地域システムの現状のレベルと適正レベルを明らかにし、農村の再生や活性化の発展段階を明らかにする。

## ４．研究成果

(1)フードツーリズムのフレームワークの確認

フードツーリズムに関する議論では、農村におけるツーリズムはいくつかの空間的なレイヤー（層）を含んでおり、それらの重層的な構造がフードツーリズムのフレームワークの基盤になる（Hall et. al. 2003,　菊地　2008)。従来の議論を踏まえて作成したフードツーリズムのフレームワークによれば（図１)、基盤となるレイヤーは、農村のさまざまな環境に基づく自然景観や文化景観を対象とするルーラルツーリズムであり、次のレイヤーは農村における「食」の生産を対象とし、農産物やその加工品の生産と直売を重要な要素とするアグリツーリズムである。さらに、農村や地域に根づいた伝統的な食文化（生活文化）のツーリズム（スローフードツーリズムやスローライフツーリズム）が加わり、最終的には、地元の食材や食文化を洗練させ、一流の料理人による新たな食文化のツーリズム（グルメツーリズム）が展開するようになる。全体的には、農村景観の空間、農業景観や農産物生産の空間、生活文化やスローフードの空間、および美食文化の空間が相互に関連しながら１つの地域に重なり合って展開することにより、フードツーリズムは完成し成熟したものとなる。

本研究の最初のステップは、以上に述べてきたフードツーリズムのフレームワークを内外の

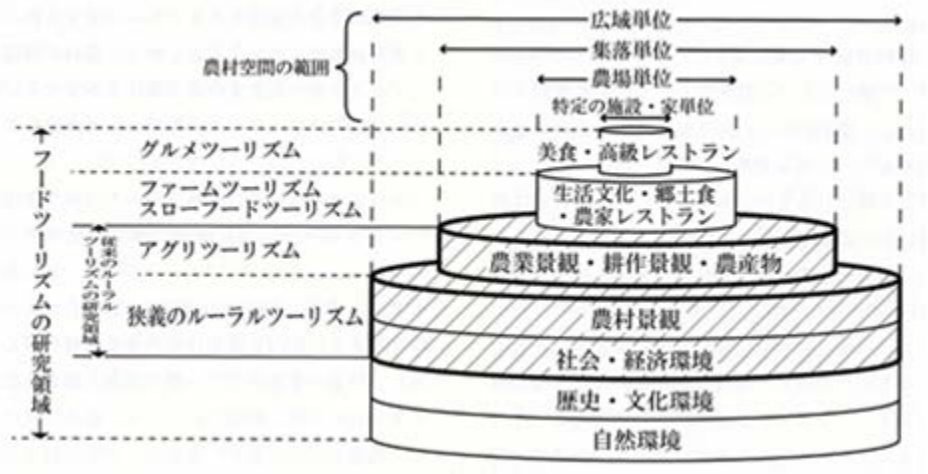


図１　フードツーリズムのフレームワーク

実証研究により検証し、農村の再生や活性化の地域システムとして活用できることを明らかにした。さらに次のステップとして、内外の農村地域の実証的な研究に基づいて、本研究はフードツーリズムのフレームワークを用いて農村の再生や活性化の地域システムをそれぞれの事例地で検討した。フードツーリズムのフレームワークの基本的な構造が、地域の自然環境や歴史・文化環境、および社会・経済環境などの資源を活用した食材の生産空間と食文化の空間の融合により構築されることが共通の地域システムとして明らかになった。そして、そのような融合するシステムが生活文化のスローフードのレベルから美食（グルメフード）のレベルまで重層的に組み合わせることにより、農村におけるフードツーリズムが多様なレベルで発展することを明らかにした。最終的なステップでは、このようなフードツーリズムが農村の再生や活性化に確実に機能するために、本研究はフードツーリズムのフレームワークに基づく３つの地域システムを新たに見出した。つまり、フードツーリズム・コンプレックス、フードツーリズム・コラボレーション、およびフードツーリズム広域化の３つである。

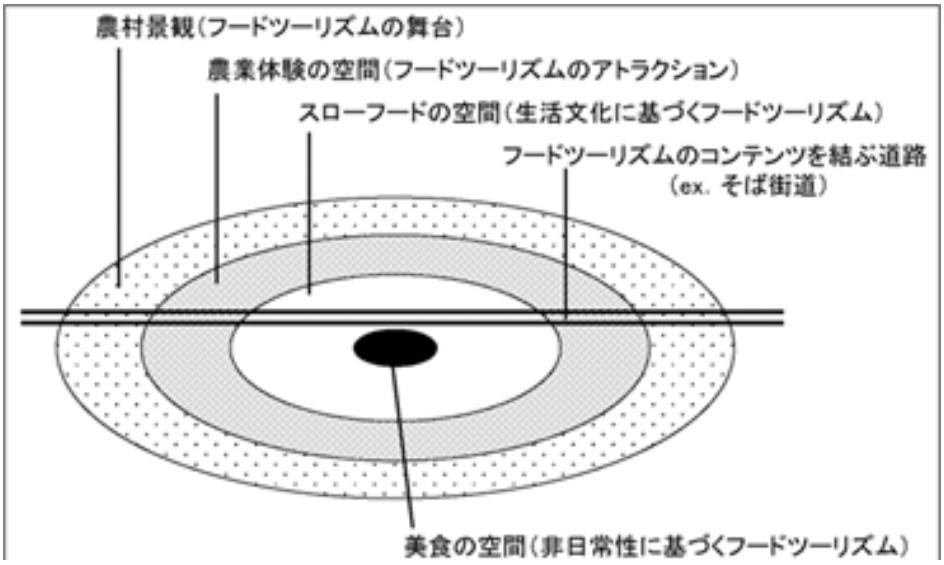


図２　フードツーリズム・コンプレックスの地域システム

(2)フードツーリズムのコンプレックスの構築

第１の地域システムは、フードツーリズムのスポット（場所）や空間（地域）を動線（道路など）によって結びつけ、フードツーリズムのコンプレックス（複合体）を構築するものである。茨城県北部の過疎農山村におけるそばツーリズムに基づく農村の再生と活性化の地域システムを示した図２によれば、フードツーリズムに関連して、農村景観の空間、農業体験の空間、スローフードの空間、美食の空間が展開しているが、それらはそれぞれが関連性もなく独立して展開していた。それらの空間に関連性をもたせるためには、空間を結びつける動線を確保する必要がある。結果的には、それらの空間を結びつける道路（そば街道）を確保することにより、空間の結びつきは確かなものになった。このような動線としての道路は、農村の観光資源

のコンテンツをコンテキスト化する役割を担っていた。また、結びつきが確かになることにより、フードツーリズムに関連した空間の重層化やコンプレックスが構築され、それが農村の再生や活性化につながることになる（菊地　2018）。

(3)他の地域資源とのコラボレーション

第２の地域システムは、フードツーリズムのコンプレックスにフードツーリズム以外の地域資源やアトラクションを付加されるもので、この地域システムは地域全体の環境や資源を対象とするため農村の活性化の持続的性格は高まっていく。オーストラリアのハンターバレーやカナダ・ブリティッシュコロンビア州のワインツーリズムに基づく農村の再生や活性化の地域システムを示した図３によれば、ワインツーリズムは大規模ワイナリーや中規模ワイナリーや小規模ワイナリーが結びつき、フードツーリズムのコンプレックスを構築することで発展してきた。しかし、ワインツーリズムは農村の地域資源を万遍なく活用していないため、農村の再生や活性化の影響が地域全体に持続的に及ぶことは難しい。そこで検討されたのが、ワイナリーとそれ以外の農村資源とのコラボレーションである（菊地　2018）。具体的には、オーストラリアやカナダのワイン生産地域では、ワイナリーが野菜生産農場や果実生産農場や酪農場などとコラボレーションし、地産地消の農家レストランでスローフードやグルメフードの空間が構築されている。つまり、フードツーリズムがそれ以外の農村資源とコラボレーションすることは、地域の農村資源を万遍なく活用することになり、フードツーリズムによる農村の再生と活性化の効果が地域全体に及ぶことになる。さらに、ワイナリーに関連する農村資源以外の資源もコンテキスト化され、資源間の結びつきが多様になるため、農村の活性化は持続するようになる。

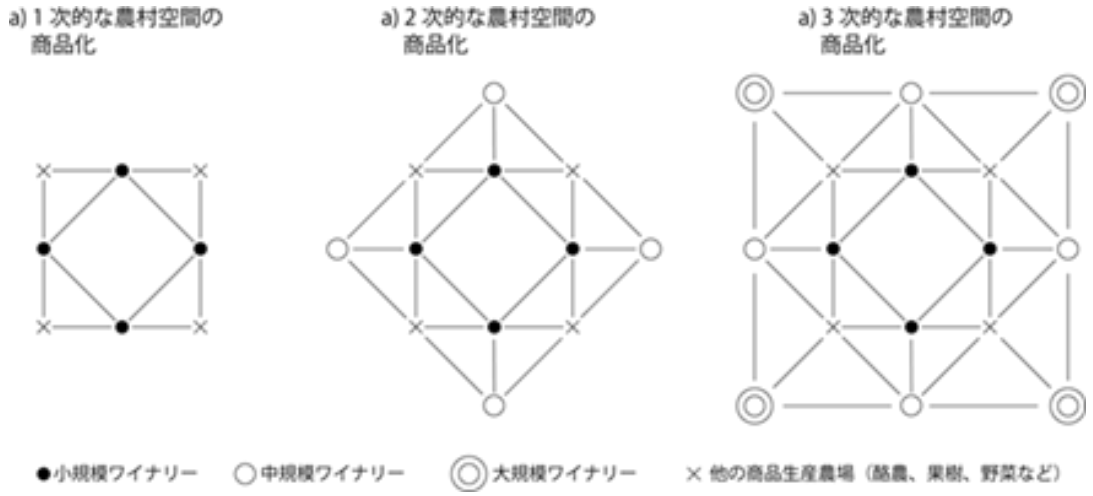


**図３　ワインツーリズムに基づく農村の再生と活性化の地域システム**

(4)地域システムの広域化

第３の地域システムは、地域システムの範囲が特定の地域だけでなく、周辺地域に及ぶようになり、農村の再生や活性化の地域システムは広域的に展開するようになる。東京近郊における都市農業地域の再編と活性化の地域システムをモデル化した図４によれば、再編前の都市農業地域では農産物直売所を中心に「農」空間が分散的に維持されるにすぎなかったが、再編後の都市農業地域では農村資源のコンプレックスが図られ、多様なタイプの農産物直売所がコラボレーションしている。さらに、そのようなフードツーリズムの核となる農産物直売所のコラボレーションは、ひとつの地域にとどまることなく周辺地域に影響を及ぼし、周辺地域のフードツーリズムのコンプレックスやコラボレーションと結びつき、フードツーリズムに基づく農村活性化の地域システムは広域化するようになる（田林ほか　2021）。最終的には、フードツーリズムによる農村の再生や活性化の地域システムは第１の地域システムから第２のものに、そして第２のものから第３のものに進化する傾向にあることがわかった。このような進化のプロセスはフードツーリズムの担い手の量（数）や質（属性）、資源の多様性、および都市市場（観光需要地）への近接性が重要なドライビングフォースとなる傾向にある。したがって、フードツーリズムによる農村の再生や活性化の第１段階の地域システムは、大都市遠郊の農村地域で、第２段階の地域システムは大都市近郊外縁部や中郊地域で、そして第３段階の地域システムは大都市近郊で主に展開していることもわかった。

本研究によって、農村地域の再生や活性化が諸環境や地域資源との関わりのなか、フードツーリズムのフレームワークはハードなインフラストラクチャーからソフトなアイディアまでを、あるいは自然環境から人文環境までを含めて総合的に活用することを可能にしていることがわ

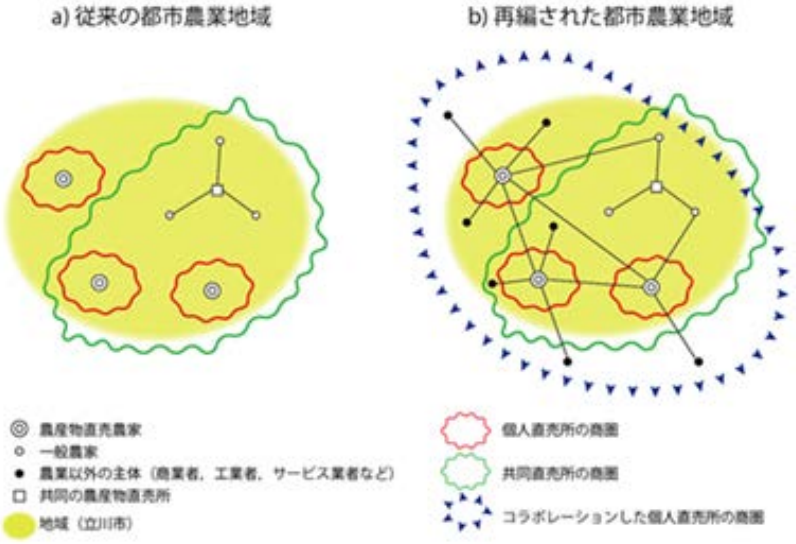


図 4　フードツーリズムに基づく農村活性化の地域システムの広域化

かり、それらを政策や計画に具体的に反映させることができることがわかった。実際、フードツーリズムに基づく農村の再生と活性化の地域システムは、身近な地域資源利用として、あるいは内的な発展として社会貢献する機会を多くするものとなっている。

## 引用文献

Hall, C.M., Sharples, L., Mitchell, R. Macionis, N. and Camboume, B. 2003. Food Tourism, Around the World, Development, Management and Markets. Butterworth Heinemann.

菊地俊夫 2008. 地理学におけるルーラルツーリズム研究の展開と可能性―フードツーリズムのフレームワークを援用するために―. 地理空間 1: 32-52.

菊地俊夫　2018.「ツーリズムの地理学」二宮書店.

田林明・菊地俊夫・西野寿章・山本充　2021.「日本農業の存続・発展－地域農業の戦略－」農林統計出版.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計26件（うち査読付論文　20件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　19件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>菊地俊夫 | ４．巻<br>69 |
| ２．論文標題<br>世界地誌学習の可能性としての東南アジア・オセアニア | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>新地理 | ６．最初と最後の頁<br>61-69 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>菊地俊夫 | ４．巻<br>21 |
| ２．論文標題<br>環境保全と観光振興の両立－小笠原諸島の試みから学ぶこと－ | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>人間と国土 | ６．最初と最後の頁<br>40-41 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>菊地俊夫 | ４．巻<br>55 |
| ２．論文標題<br>リゾートと海－海辺がリゾートになるまで－ | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>TRANSIT | ６．最初と最後の頁<br>164-165 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>飯塚　遼・矢ケ崎大洋・菊地俊夫 | ４．巻<br>14 |
| ２．論文標題<br>ビールツーリズムのロカリティの再編と広域化－フランス・ノール県ダンケルク郡を事例に－ | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>観光科学研究 | ６．最初と最後の頁<br>87～96 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>IIZUKA Ryo、OTA Kei、KIKUCHI Toshio | 4．巻<br>128 |
| 2．論文標題<br>Growth and Sustaining Strategies of Urban Agriculture Based on Interaction with Urban Residents: The Case of Kodaira City, Tokyo Metropolis | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>Journal of Geography (Chigaku Zasshi) | 6．最初と最後の頁<br>171～187 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.5026/jgeography.128.171 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>KIKUCHI Toshio、TABAYASHI Akira | 4．巻<br>128 |
| 2．論文標題<br>Strategies for Sustaining and Developing Paddy Farming in the Saga Plain, Southwestern Japan | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>Journal of Geography (Chigaku Zasshi) | 6．最初と最後の頁<br>209～233 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.5026/jgeography.128.209 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>TABAYASHI Akira、KIKUCHI Toshio、NISHINO Toshiaki | 4．巻<br>128 |
| 2．論文標題<br>Sustainability of Fruit Farming in the Kofu Basin, Central Japan | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>Journal of Geography (Chigaku Zasshi) | 6．最初と最後の頁<br>255～276 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.5026/jgeography.128.255 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>TABAYASHI Akira、KIKUCHI Toshio、NISHINO Toshiaki | 4．巻<br>128 |
| 2．論文標題<br>Strategies for Sustaining and Developing Agriculture and Regional Conditions in Japan | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>Journal of Geography (Chigaku Zasshi) | 6．最初と最後の頁<br>337～358 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.5026/jgeography.128.337 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>菊地俊夫 | 4．巻<br>38 |
| 2．論文標題<br>東京大都市圏における「農」空間の保全と適正利用によるルーラルツーリズムの発展 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>農村計画学会誌 | 6．最初と最後の頁<br>15～18 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>菊地 俊夫 | 4．巻<br>12 |
| 2．論文標題<br>地理学とフィールドワークの世界 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>地理空間 | 6．最初と最後の頁<br>149～158 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.24586/jags.12.3_149 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Tabayashi, T., Kikuchi, T. and Waldichuk, T | 4．巻<br>12 |
| 2．論文標題<br>Commodification of rural spaces owing to the development of organic farming in the Kootenay region, British Columbia, Canada | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>Geographical Space | 6．最初と最後の頁<br>71～95 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.24586/jags.12.2_71 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>菊地俊夫・飯塚　遼 | 4．巻<br>13 |
| 2．論文標題<br>シドニー大都市圏のビールツーリズムの発展にみる地域資源の再編プロセス | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>観光科学研究 | 6．最初と最後の頁<br>33～41 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>菊地俊夫 | 4．巻<br>66(3) |
| 2．論文標題<br>「地理探究」における観光教育の存在意義 | 5．発行年<br>2018年 |
| 3．雑誌名<br>新地理 | 6．最初と最後の頁<br>81-85 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>菊地俊夫 | 4．巻<br>12 |
| 2．論文標題<br>カナダ・ブリティッシュコロンビア州のバンクーバー大都市圏における都市農業の発展にともなう農村空間の商品化 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>観光科学研究 | 6．最初と最後の頁<br>11-20 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>Saika Ummeh、Kikuchi Toshio | 4．巻<br>6 |
| 2．論文標題<br>Classification of Urban Parks and their Regional Characteristics in Dhaka City, Bangladesh | 5．発行年<br>2017年 |
| 3．雑誌名<br>Journal of Environmental Science and Engineering | 6．最初と最後の頁<br>41-54 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.17265/2162-5263/2017.01.005 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>該当する |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>菊地俊夫・野田瑞樹 | 4．巻<br>15 |
| 2．論文標題<br>首都圏における「農」資源の観光活用ポテンシャルによる地域区分－存続・発展のもう一つの方向性からみた日本の農業地域区分の新たな試みとして－ | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>地理空間 | 6．最初と最後の頁<br>227-247 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>菊地俊夫 | ４．巻<br>570 |
| ２．論文標題<br>「地」の「理」を「学」ぶための５つの技能 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>地理月報 | ６．最初と最後の頁<br>14-17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計32件（うち招待講演　10件／うち国際学会　13件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kikuchi, T., Tabayashi, A. and Waldichuk, T |
| ２．発表標題<br>Commodification of Rural Spaces Owing to the Development of Organic Farming in the Kootenay Region, British Columbia, Canada |
| ３．学会等名<br>The 28th Colloquium of the Commission on the Sustainability of Rural Systems, International Geographical Union（国際学会） |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Iizuka, R., Ota, K. and Kikuchi, T. |
| ２．発表標題<br>Sustaining Strategies of Urban Agriculture Based on Interaction with Urban Residents in the Tokyo Metropolis |
| ３．学会等名<br>The 28th Colloquium of the Commission on the Sustainability of Rural Systems, International Geographical Union（国際学会） |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Ranaweerage, E., Kikuchi, T. and Yagasaki, T. |
| ２．発表標題<br>Tokyo as a Tourism Metropolis |
| ３．学会等名<br>The Seminar for Tourism and/in the Metropolis（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>(1)飯塚　遼・矢ケ崎大洋・菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>西オーストラリア州パース都市圏における複合的ベバリッジ・ツーリズムの共生と発展 |
| ３．学会等名<br>日本地理学会春季学術大会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>世界地誌学習の可能性としての東南アジア・オセアニア |
| ３．学会等名<br>日本地理学会秋季学術大会（オンライン）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Waldichuk, T., Kikuchi, T., Tabayashi, A. and Nihei, T |
| ２．発表標題<br>Agriculture Diversity in BC's Thompson and Cariboo Regions |
| ３．学会等名<br>Association of British Columbia Studies（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Iizuka, R., Kikuchi, T. and Phillips, M |
| ２．発表標題<br>Change in mobility and impact of rural gentrification in remote commuter villages: The case of the rural area of Leicestershire, England |
| ３．学会等名<br>XXVIII European Society for Rural Sociology Congress（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kikuchi, T |
| ２．発表標題<br>Commodification of rural environments for regional development in Japan; Attention to differences of regional environments |
| ３．学会等名<br>The Workshop of Economic and Social Research Council（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>地理学とフィールドワークの世界 |
| ３．学会等名<br>地理空間学会（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kikuchi, T. |
| ２．発表標題<br>Development of wineries and its impact on rural commodification of Cowichan Valley in Vancouver Island, Canada |
| ３．学会等名<br>Reginal Conference of International Geographical Union(IGU)（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Iizuka, R. , Kikuchi, T. and Phillips, M. |
| ２．発表標題<br>A new perspective on the landscape restructuring caused by rural gentrification in a cosmopolitanised commuter village |
| ３．学会等名<br>Reginal Conference of International Geographical Union(IGU)（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Kikuchi, T. |
| ２．発表標題<br>Commodification of rural spaces with the development of urban farming in the Vancouver metropolitan area, Britishi Colombia, Canada |
| ３．学会等名<br>EUROGEO Conference（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Iizuka, R. and Kikuchi, T. |
| ２．発表標題<br>New developments in urban agriculture due to diversified farming: The case of Kodaira City, Tokyo |
| ３．学会等名<br>XXVII European Society For Rural Sociology Congress（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Iizuka, R. and Kikuchi, T. |
| ２．発表標題<br>Construction of new rurality in the urban fringe: A case study of Kodaira-city, Tokyo Metropolis |
| ３．学会等名<br>EUGEO（国際学会） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>里山を楽しむために－歩く、みる、きく、学ぶ－ |
| ３．学会等名<br>全国都市緑化はちおうじフェア（招待講演） |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>田林　明・菊地俊夫・トム・ワルデチュック |
| ２．発表標題<br>カナダ・ブリティッシュコロンビア州のクートニー地域における有機農業の発展にみる農村空間の商品化 |
| ３．学会等名<br>日本地理学会秋季学術大会 |
| ４．発表年<br>2017年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>都市農地を考える |
| ３．学会等名<br>小平プチ田舎シンポジウム（招待講演） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Iizuka, R. and Kikuchi, T. |
| ２．発表標題<br>The development of urban gardens and sense of community in Leicester City, England |
| ３．学会等名<br>EUGEO（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>八王子におけるMICEの発展とそれが観光振興に果たす役割 |
| ３．学会等名<br>八王子市コンベンション協会シンポジウム（招待講演） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>トンプソン・カリブー地域における大規模牧畜農場の再編とそれにおともなう農村空間の商品化 |
| ３．学会等名<br>日本地理学会春季学術大会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>田林　明・菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>カナダ・ブリティシュコロンビア州における農村空間の商品化による都市－農村共生システム |
| ３．学会等名<br>日本地理学会春季学術大会 |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>首都圏における「農」資源の観光活用ポテンシャルによる地域区分－存続・発展戦略のもう１つの方向性からみた日本の農業地域区分のための新たな試みとして－ |
| ３．学会等名<br>地理空間学会 |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>菊地俊夫 |
| ２．発表標題<br>地域資源を活かしたツーリズムの過去、現在、未来 |
| ３．学会等名<br>サイエンスカフェRRM（招待講演） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Iizuka, R., Kikuchi, T. and Ota, K |
| ２．発表標題<br>New rurality and sustainability of agriculture in Japanese urban fringes: A case study of Kodaira City, Tokyo Metropolis |
| ３．学会等名<br>The RGS-IBG Annual International Conference, Newcastle（国際学会） |
| ４．発表年<br>2022年 |

〔図書〕　計10件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Kikuchi, T., Matsuyama, H., Sasaki, L. and Ranaweerage, E. | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>Asakura Publishing | ５．総ページ数<br>158 |
| ３．書名<br>Geography of Tokyo | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>田林　明・菊地俊夫・西野寿章・山本　充 | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>農林統計出版 | ５．総ページ数<br>395 |
| ３．書名<br>日本農業の存続・発展－地域農業の戦略－ | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>菊地俊夫 | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>二宮書店 | ５．総ページ数<br>152 |
| ３．書名<br>地の理の学び方－地域のさまざまな見方・考え方－ | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>東京都立大学小笠原研究委員会編（代表編集幹事　菊地俊夫） | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>朝倉書店 | ５．総ページ数<br>196 |
| ３．書名<br>世界自然遺産　小笠原諸島－自然と歴史文化－ | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>飯塚　遼・菊地俊夫 | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>二宮書店 | ５．総ページ数<br>188 |
| ３．書名<br>観光地誌学―観光から地域を読み解く― | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>田林　明・菊地俊夫ほか | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>農林統計出版 | ５．総ページ数<br>308 |
| ３．書名<br>カナダにおける都市-農村共生システム | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Kikuchi, T. and Sugai, T. | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>Springer | ５．総ページ数<br>334 |
| ３．書名<br>Tokyo as a Global City; New Geographical Perspectives | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>菊地　俊夫 | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>二宮書店 | ５．総ページ数<br>224 |
| ３．書名<br>ツーリズムの地理学 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>矢ケ崎典隆、菊地俊夫、丸山浩明 | ４．発行年<br>2018年 |
| ２．出版社<br>朝倉書店 | ５．総ページ数<br>152 |
| ３．書名<br>ローカリゼーション | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|